

# 東京龍門会報

発行所  
東京龍門会  
---  
発行人  
若松文保

## 創刊にあたって

会長 (旧中二六期) 若松 文保

会員の皆様には、昭和五二年の新春を迎えて、益々御清祥のこととお慶び申し上げます。私は、因らずも会長の大役を仰せつかっているものですが、本会報の創刊に当り、一言ごあいさつを申し上げます。

加治木高等学校同窓会の関東支部として、去る四八年に新発足したもので、今年で五年目を迎えます。新発足当時の会員数は三七一名でしたが、四九年には五四〇名になったので、会員名簿の作製が先決と考え、始めて同名簿を作り、また、この年に本会の規約もできました。次で五〇年には九九五名になり、五一年には一、一四六名(旧中二九七、

旧女一〇五、高校七三六、旧師八)の大会上に上りました。今年度は、今までに漏れている会員をできるだけ網羅するようにし、高校も五一年卒(二八期)までを含めれば、総員は一、五〇〇名前後にもなることでしょう。さて、本会の目的は、「会員相互の親睦と福祉の増進を図り、あわせて母校の発展に寄与すること」にあります。本会を通じて、お互にその所在を知り、

毎年の総会やその他で相会しては「心のふるさと」にしたり、お互の親睦を図るなかで、先輩、後輩のきずなも生れ、仕事上でもまた結婚問題等私的生活面でも、それぞれに役立つこともできましようし、そうありたいと願うものであります。ここに、会員各位の御協力を切にお願いする次第であります。

私始め、役員の方諸君も、それぞれの仕事の余暇に本会のお世話をさせていただきます。おそらく彼等は来る三月の卒業期には八〇周年の記念の年の幕明けにふさわしい躍進振り今年に引続き、また見せてくれるものと確信いたしております。文学碑の建立に就いて今秋末には同窓法元六郎氏(旧中二八期)入魂の作になるブロンズ像「若人の像」が新しく造園され、前庭に設置されることになり、すでに大方の製作は終わっております。



昭和51年度総会(51. 5. 29)

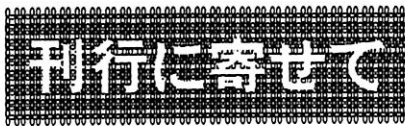
限りなく碧い薩摩の秋空に、桜島の噴煙が吸い込まれるように立ち上っております。校舎に影を落す楠の葉も、わずかに風にそよぐような静かなたたずまいの母校の昨日今日でございます。歴史の重みを感じるこの静謐の中に、一四〇〇名の生徒が息をつめて、来る日も来る日も自己充実の営みを続けておりますが、今年に創立八〇周年祝典の前年祭ともいうべき年に当り、様々な記念事業の遂行に彼等がかかわりを持つ年でありました。けに、それだけに輝かしい伝統の中に生きていく自覚を感得しているようでございます。「人は歴史を作り、歴史によって人は作られる」の言葉そのものが、実感として若い後輩に理解され、加治木高校八〇年の歴史の流れの中に息づいている自分自身の姿を強く意識しているものと思っております。「私の間人美学はここで形成

された。当時の校風が男はいかにあるべきかを私に教えた。私はその美学に従って生き、その美学を文学化し続けて、今年七四郎の文学碑は皆様の御芳志による基金によって既に昨年十二月、あの歴史を刻んだ校内の近くに建てられ、朝な夕なその前をよぎる若人に声なき叱咤を送っておりますが、私は一四〇〇名の生徒の胸の中に、おそらくは自分なりのそれぞれの文学碑がすでに建立されていることだろうと考えております。やる気充分の胸を張った彼等に接する度にそう思われるのでございます。これこそが創立八〇周年記念事業にお寄せ頂く先輩各位の最終にして、最高の願いであり、ねらいであろうかと存じます。

### 母校の窓より

校長 福中 典男

若人の無限の飛躍をシンボライズするこのブロンズ像が青華の中に誇らかにその偉容を現わすのも間近でございます。又、太平洋戦争終結直前の昭和二〇年八月一日午前二〇時母校警備の任にあたっていた在学生十四名が運動場のあの楠の下で一瞬にして戦火の犠牲となり護国の神となりました。



同窓会長 (旧中二六期) 佐藤 八郎

一千名に及ぶ東京龍門会々員の諸兄が各方面において輝かしい活動をされておられることに對し、心から敬意を表しますとともに私はこれを非常な誇りとしている次第です。

われ／＼の母校加治木高校は、ご承知のように旧制加治木中学校と加治木高等女学校を統合して戦後発足したものであります。旧制加治木中学校が明治三十年四月廿一日創立されて以来一万八千名余の卒業生を出し、幾多の人材を生んだ伝統ある我が母校も本年四月廿一日をもっていよいよ創立八十年を迎えることになりました。

更にこれよりさき、下校途中の一生徒も同様、戦いに殉じましたが、これら悲運の十五柱の若い魂をどこしえに鎮め祭るレリーフも法元氏の手になり、「若人の像」と同時に亡師友の碑に隣接して建造されることになっております。

これら一連の事業はすべて後輩の奮起と発展を期待してなされたものであり、母校に寄せられた先輩各位の暖かい御支援のしからしめたものであることを思います時に、その御厚情にこたえるため最大限の努力をいたすべきであると全校の者が決意いたしましたところでございます。

私共は輝かしい伝統を共にする者の契りがいよいよ強固なものとなり、名門加治木を自ら口する者として更に精進を続けたいものと念じている次第であります。

この上とも、先輩各位の御叱声、御援助を賜りますようお願い申し上げます。近況報告といたします。

になりました。

この母校創立八十周年記念の年が母校にとって一層の躍進の時になるように皆様ご賛同のもとに記念事業を計画し、皆様の暖かいご協力をいただいておりますことを心から厚くお礼申し上げます。

記念事業はかねての計画通り進行しております。

即ち母校の前庭の造園は完成し、その周辺に「若人の像」、同窓生海音寺潮五郎氏文学碑及び戦時中母校内で空襲で死亡した生徒十五名の慰霊のための学徒の碑も同窓生の彫刻家法元六郎氏の手により完成され建立されました。同窓会名簿作成は鋭意進行中です。この四月廿一日(木)八十周年記念式典を行うことが予定されています。当日午前九時からこれらの碑の除幕式、慰霊祭について式典が行われ十一時から海音寺潮五郎先生の記念講演、終つて祝賀会(午後一時〜午後三時)の予定です。その後はこの機会に全国から馳せ参じた級友による夫々の全国的クラス会が夫々の世話人に

より夫々の場所です楽しく行われることになっております。この記念行事が盛大に挙行せられるよう全国各地から多数の同窓生諸氏が参集せられることを期待しております。東京龍門会の諸兄

## 竜門会の発展を祈念

幽芳会々長 (高女十三期) 川崎ハツ

加治木高校同窓会長佐藤八郎先生、前校長川畑美輝男先生のお奨めもあって、前副会長木場ふじま様、先輩諸氏の手で旧加高女幽芳会再発足が醸成され、昨年五月二十四日第一回総会を開催、規約に則り、後記役員を選定し多くの方々温かい御指導と御協力での運営を始めました。今は母校となりました名門加治木高校は、福中校長先生の許、いよ／＼その名を挙げつつございませう時、来年は八十周年を迎える記念行事の数々が、或は平易に又困難に準備されつつございませう。私共幽芳会も何等かの形で贊助致したく寄付募金、名簿作製など着手、寄付額は多数の御協力での目標額にはば

も大挙してご参加下さるよう御願ひ申し上げます。

では母校でお元氣な皆様をお迎へすることを楽しみにして東京龍門会のご発展と皆様の一層の御清栄を祈り上げます。

達成いたし、感謝いたしております。しかし今後会の進展のために広域に亘る組織づくりなど案じ居ります時、東京龍門会より温かい御案内をいただき、本会本部との連携のきつづなとして、ありがたく先榮に存じます。これ偏えに母校愛と学校当局の御力によるものと、お心に應えるべき責任を感じます。

ここに舌足らず乍ら、遙かに感謝をこめて、皆様の御健闘を祈り、母校に生きる東京龍門会の御発展を祈念いたし、御挨拶にいたします。

会長 川崎 ハツ (女13)  
副会長 有川 アキ (女1)  
副会長 前田 竜子 (女17)  
書記 柳川 ぶち子 (女22)

## 感謝の記

顧問 (旧中二六期) 濱田 尚友

昭和二年三月、旧制加中を巣立った私共は、今年満五十年の卒業記念を迎えるわけだ。

同窓会長佐藤八郎君も、東京竜門会長若松文保君も同級生である。この両君が同期の代表的人材であることは勿論であるが、地元でも、鹿児島市を中心に郡部、市町村至るところで同期の級友が大活躍している。南九州土木建築界で第一級の小牧組会長小牧才二工学博士、加治木の大山書店社長大山綱男君ほか、医学界では、濱田道紀博士など多数あり、また、金融界、産業界、教育界はもとより、市町村会議長など多士済々である。そのころは、大正デモクラシーの全盛期ではあったが、県立加中に入學することは、入学試験の関門も相当のものだったし、子

を中学に入れる親は、経済的負担を相当に覚悟せねばならぬ時代でもあった。戦後三十年のお仕着せ憲法下、民主主義を自由奔放と曲解し切っている手合いと全く異なっていたのだ。親や教師の権威と恩義に對し、中学生として中学生なりに感謝の念、責任感を自発的に発想していた。そして、自ら誇りをもつて、きびしい自己規制をしつつ、社会連帯の一員として寄与したい念に燃えていたように思う。

卒業前の一年間教えられただけの日高佐七校長に、「蝶どん」の渾名を呈したのは筆者だった。だがそれは、先生の教え方の無類のきびしさの中に、人間的責任感を増大する強壯剤みたいな強烈な熱情と、愛情を感じざるを得なかったからだ。時移

何百人の部下を采配して、彼等の力を熱情的に結集しつつ、仕事の効率を増大させている小牧君も、若松君も、やはり蝶校長の直弟子だ。殊に、日本一多人数の設計技士を使つて、日本狭しと世界各地にまで進出している若松文保君には、彼が、超人的多忙さをいとわずに、東京竜門会の会員名簿の作製や、規約制定のために苦心を重ねた人知れぬ苦労に對し、この機会に一會員として心から感謝せずにはおられない。



# 東京龍門会のあゆみ

副会長 (旧中二八期) 安田清廣

東京龍門会が加治木高等学校  
同窓会関東支部として新発足し  
たのは、昭和四八年六月二日の  
総会開催時からですが、その以  
前における同窓の集いや、その  
後における本会のあゆみなど  
について、あらましを述べ、会員  
の皆さんの参考と供したいと存  
じます。なお、新発足以前のこ  
とについては、格別の記録もな  
いので、その時々には世話役を  
された幹事の皆さん(酒匂旧中三  
〇川野同二六、日高同三七、馬場  
同四〇、吉丸、篠原同四五、後  
藤高六)から聞いてとりまとめ  
たものです。不備な点はご容し  
下さい。

座の交詢社で在京同窓会が催さ  
れました。なお、木原氏は、在  
京の先達として、戦後早々にタ  
クシー会社を設立され、大に活  
躍されていたのですが、不幸に  
して病氣のため、四七年七月に  
急逝されました。

◇◇◇

終戦から四二年までの間は、  
その時々、同窓有志による会  
合が持たれていたようですが、  
特に在京同窓会としての催しは  
なかつたようです。事例として  
は、日高元校長先生(大正一五  
年から昭和一五年まで永年旧加  
中校長として在職)を囲む会が、  
同先生の上京を機会に有志によ  
って催されたり、また同窓の関  
取鶴ヶ峰(旧中四五)の後援会が  
同期を中心に結成され、激励会  
が催されたりしていたようです。

◇◇◇

四八年は、従来の幹事諸兄が  
相図り、世話人代表に、パンフ  
ィックコンサルタントの専務  
取締役として活躍されている、  
旧中二六期の若松文保氏の出場  
を願って、同年六月二日に、パ  
ンコビル内で、同窓会関東支  
部として、初の東京龍門会総会  
が催されました。出席者は約七  
〇名で、佐藤同窓会長および川  
畑校長が臨席されました。なお  
本会の組織的な運営を図るため  
本会の規約制定が考えられまし  
たが、次年度に譲ることにし、  
本総会では、緊急動議により、  
とりあえず、会長一名、幹事若  
干名および雇門一名を置くこと  
が議決されて、会長に前記者松  
氏が選任され、その他幹事五名、  
雇門一名が選任されました。

◇◇◇

四三年から四七年までは、母  
校創立七〇周年の翌四三年に、  
母校からの連絡もあり、前記幹  
事の諸兄が世話役をされ、旧中  
二九期の木原保氏を代表幹事に  
し、四三年八月一〇日に大久保  
の三福会館で、始めて在京同窓  
会が催されました。出席者は約  
八〇名で、母校からは村野校長  
川畑教頭、上原教務主任の各先  
生方が臨席されました。そして、  
四四年からは事実上木原氏が代  
表幹事になり、毎年全国校長会  
議で上京された母校の校長先生  
を迎え、東京龍門会として、銀

四九年には、佐藤同窓会長お  
よび上原教頭を迎え、始めて在  
京恩師の柴田先生の臨席をいた  
だき、五月一日にパンコンビ  
ルで、約一〇〇名の会員が出席  
して総会が開催されました。そ  
して、お互の親睦を図り、その  
契りを強くして、本会を充実す  
るためには、先ずは、会員名簿  
の作製が先決であることから、  
幹事が手分けして調べた範囲で、  
先ず旧加中と加高一期までの  
五四〇名について、始めて会員  
名簿を作製し、全会員に配付し  
ました。また、前年度からの懸  
案であった規約案を総会にはか  
り、始めて本会の規約が制定さ  
れ、本会の目的、年会費払込の

こと、その他会運営の具体的仕  
組みが定められ、今後における  
本会の充実を図ることになりま  
した。そして、会長に若松氏が  
選任され、幹事二名(旧中三  
九期まで五名、同四〇期以降と  
高校は会員も多いことから各期  
一名とし一六名)、監事二名、  
雇門一〇名が選任されました。  
また、監事の中から常任幹事  
一〇名が互選されました。

◇◇◇

五〇年は、福中校長を迎え、  
在京恩師の柴田、今村両先生が  
臨席され、五月三十一日に目黒の三  
州倶楽部で、約一三〇名(女子会  
員も八名初参加)の会員が出席  
して総会が開催されました。なお、  
本年は、会員も高校は二〇期ま  
でだけ、旧女学校も一部の会員  
が参加して、総員九九五名(う  
いさつ申し上げます。

五一年は、福中校長と上原前  
教頭(現宮之城校長)の両先生を  
迎え、在京恩師は、柴田、長浜、新  
垣、上松の四先生が臨席され、約  
一四〇名の会員が出席して、五  
月二十九日に三州倶楽部で総会が  
開催されました。なお、本年は、  
母校からの知らせで、旧女学校  
の在京会員も新に入四名が判り、  
また、高校も二四期までだけ、  
総会員は一、一四六名(旧中二  
九七、旧女一〇五、高校七三六、  
旧師八)の大会に上りました。  
このように会員も増加したので、  
本総会において規約の一部が改  
正され、新に副会長および幹事  
長を置くことになり、副会長(旧  
中、旧女、高校の各代表一名)

## ごあいさつ

副会長 (高女二〇期) 彦野すみ子

東京龍門会の会報創刊に際し、  
旧制女学校の部の副会長として、  
まことに潜越ですが、一言ご  
いさつ申し上げます。  
今まで、東京在住の女学校と  
しての同窓会は年一回開催して  
きましたが、出席メンバーが変ら  
ないので、隔年ごとに変更し、  
また、各クラスごとには、少な  
くとも年一回ささやかなクラス  
会をもち、その会合での懇談は、  
家庭の妻として、或いは母とし  
て、またあるときは甥、姪のこ  
と等極めて限られた話題で、ひ  
と時を楽しく過ごしてきました  
が、昨年四月若松会長から加治  
木高等学校同窓会(旧制加治木  
中学校、旧制女学校および加治  
木高等学校の同窓を一本化した  
もの)の関東支部として、東京  
龍門会の在ることを聞き、旧制  
女学校も当然会員であるからと

のことで、おそいを受けたた  
で、各クラスに連絡をとりまし  
た。そして、昨年五月の総会に  
始めて出席させていただき、誠  
に盛大なことにおどろきました。  
また、私達の学生時代は戦時中  
のことで、女学校入学と同時に、  
男性の方との交際は一切だめと  
いう現在の世代の方には全く想  
像もできない時代でしたので、

小学校時のクラスの男性の方、  
上級生の方、下級生の方達と何  
十年ぶりで再会でき、皆様方の  
多方面でのご活躍を目のあたり  
に受け賜り本当に楽しいことで  
した。そして、人間的に自分も  
大きくなったような錯覚に満足  
感を感じ、今年の総会での再会  
を今から楽しみにしております。  
今後女性の方も各クラスごとの  
横の連絡は勿論のこと、縦の連  
絡も密にして、微力ながら東京  
龍門会の発展に寄与したいと思  
っています。

と幹事長が選任されました。役  
員の氏名は別表のとおりです。  
なお、会員名簿は経費の点もあ  
り、本年の母校創立記念の年に  
作製することにして取り止めま  
した。今年、高校も五一年卒二  
八期までを含め、今までに漏れて  
いる会員をも網らして(総員は  
一、五〇〇名前後にもなるでし  
ょう)。内容のより充実した名  
簿を作製すべく、準備を進めて  
いるところです。

## 創立八〇周年 記念行事

来る四月二日午前九時か  
ら、次の記念行事が母校で行  
われます。都合のつく方は、  
できるだけ多数ご参加下さい。  
除幕式  
文学碑、若人の像、学徒の碑  
慰霊祭  
亡師亡友の靈  
記念式典  
記念講演 海音寺潮五郎  
祝賀会 会費一〇〇〇円  
体育祭 文化祭  
九月下旬

賢者  
茶  
鍋

関東営業所  
贈答!!  
お土産に!!  
水口園  
水口商事株式会社  
相模原 淵野辺 3-10-12  
TEL 0427(56)9509・9917



話題の健康食品

天然の香り  
米酢100%

あさひ  
酢

製造元  
アサヒ食品工業株式会社

鹿児島県姶良郡早稲町内山田8の10

関東地区にて  
発売中!!

焼酎王国  
鹿児島が誇る

薩摩 アサヒ  
焼酎

古酒 李白

日当山醸造株式会社

鹿児島県姶良郡早稲町西光寺649  
電話 09954(2)0315

# 会を大切に

副会長(高三期)  
酒匂 昭男

母校は、本年四月二十一日で八十周年を迎えます。明治三十年に開校してから多くの人びとの愛情と努力によって支えられ、幾多の苦難を経て、現在に至りました。昨年の夏、二六会総会(昭和二十六年卒同期会)への出席を機会に母校を訪れてみましたが、立派になった校舎や施設、造成されたすばらしい庭園など、その変容に目を見張るものがありました。しかし、校門の古いたたずまい、加治木石でつくられたへい、老楠、老銀杏、スタンドは、今なお昔日の面影を残しており、訪れる私達の心を和めてくれます。そこに学び、そこで育った私達の共通の心は現在も生きています、その感を一層強くいたしました。

ときに、よき先輩、後輩との出会いによって結ばれ育てられてきた東京電門会も、千名をこす大世帯に発展し、会の六〇%が高校部会に占めるといふ状態です。これもひとえに先輩の方々の努力のためものと深く感謝する次第です。昭和四十八年五月の総会以来、高校部会の若い世代の人びとの出産も年々多くなつてまいりました。イギリスの古いことわざに「焚くなら古

い薪、読むなら古い本、交わるなら古い友」がありますが、若い時代に共に楽しみ、苦しんだ親友は一生の宝といつても過言ではないでしょう。同期の仲間であり、同窓の仲間であるという人生のすばらしい出会いを大切にしていけることが、幸福にながっていくと思えます。

本会は「会員相互の親睦と福祉増進を図り、あわせて母校の発展に寄与する」ことを目的としています。縁のあったことを謙虚に喜びあい、その喜びの心で誠意と熱意をもってお互いのつながりを強めていきたいものです。遠慮がなくものがいえる「龍門会」、いつまでも会を大切にしたいと思えます。

# 編集後記

初めての会報発行で、未熟でもあり、昨年内の発行予定がおくれ、また、内容も不備な点も容しや願います。スペースのこともありますが、今後は、会員のミニ通信欄でも設けたらと思えます。

同窓会長、母校々長始め先輩の玉稿を賜り感謝にたえません。福中校長、川崎会長のお二方からは昨秋に原稿をいただきながら、おくれましたことをお詫びします。(安田)



ふるさとの香り

# がるかん

# 饅頭

■直売店 大丸八重洲店  
大丸町田店  
有楽フードセンター  
羽田空港  
全銘(八重洲地下街)

# 九面屋 東京営業所

東京都世田谷区代田 6-11-8 ☎469-3927

豊かな湧水  
豊かな技術  
さらにおいしく

■本格いも焼酎

# おはら



本坊酒造株式会社東京営業所  
中央区八重洲四丁目七番星八重洲ビル  
電話 〇三(二七四)二八二六